

「今の社会」から「平等な社会」へ
松江市立第三中学校 1年 三上 直太郎

「平等な社会」とはどのような社会のことを言うのでしょうか。

この世界には、いろんな人がいます。体つきや話す言語、得意不得意など、さまざまな特徴があります。

僕は実際に、性別やそれぞれが持っている特徴、個性も関係無く、共に働いたり、生活したりしている風景を見たことがあります。僕は生まれつきの病気の関係で、ずっと車椅子に乗って生活してきましたが、今まで出会った人の中で、僕に対して不平等、不公平な差別的行為を取る人は一人もいません。

ある時、コンビニの店員さんが、僕に「お助けできることがあれば、何でも言ってくださいね。」と、優しく声をかけてくださいました。こういった「思いやり」が、僕はとてもありがたいし、うれしいです。

これらのことも、平等な社会を実現するためにとても大切だと思います。

しかし、平等な社会の実現には解決が難しい課題も存在します。アメリカで、白人の警察官が一般の黒人男性の首を絞めて殺害したという大きな事件がありました。この辺りの地域では人種間の対立がありました。この事件により、その対立が激しくなっており、『黒人の命も大切だ』という内容の抗議デモも広まっています。

また別の国では、新型コロナウイルス関係で、アジア系の人が一人的男性から暴行を受けたという事件も起こりました。

このような事件を、私たちは決して他人事と考えてはいけません。僕は、学校やネット内でのいじめや、SNSでの誹謗中傷なども、差別だと思います。実際、いじめや誹謗中傷を受けて自ら命を落とす人も、今の時代、少なくありません。

このような差別は、私たちにも起きたり起こしてしまったりする可能性も十分にあるため、決して、他人事とは言えません。だからこそ、平等な社会を築き上げていくためには、これらの身近なトラブルから無くしていくことも大切だと思います。

ここで、そもそも「全ての人が平等な社会」とはどのようなものなのか、少し想像してみましょう。

例えば、僕のように車椅子に乗っている日本人の男性が、外国人で黒人の女性と協力して活動したり、楽しく会話をしたりしている、これだけでも平等な社会と言えると思います。

「互いを尊重し合う」と言ってもなかなかピンと来ない人もいるかもしれません。「尊重」とは、『価値のあるものとして、大切にすること』という意味です。その意味の通り、一人一人の命や特徴を十分な価値のあるものとして、大切に守っていく、そんな社会こそ、「全ての人が平等で、さらに互いを尊重し合える社会」といえるの

ではないでしょうか。

最後に、「全ての人が平等な社会」の実現のために必要なキーワードを自分なりに考えてみました。それは、「話す」ことだと思います。これを選んだ理由は二つあります。

まず一つは、自身の思いを伝えなければならないからです。今、解決しなければならない問題はどれも、いろんな人が自身の思考や意見を、誰かに「話し」て、発信していかない限り、今の深刻な状況は何も動かないと思います。

そしてもう一つは、「話し合う」ことも大切だと思ったからです。それぞれ、住んでいる国や、個性、特徴の異なる人たちが、自身のことや国の間での問題について話し合えば、互いへの理解が深まり、問題も少しずつ解決していくのではないかと思います。

今、自分たちにできることを考え、一人一人が互いのことを尊重し合うことができれば、いつかは、誰もが平等で安心して過ごせる、平和な社会が訪れることでしょう。